

〔原著〕

歯学部臨床実習における老人福祉施設実習の意識調査

白井 要¹⁾, 半田 慶介²⁾, 河野 舞³⁾, 長澤 敏行⁴⁾, 江口 正尊⁵⁾, 越野 寿³⁾, 斎藤 隆史⁶⁾, 古市 保志¹⁾

- 1) 北海道医療大学口腔機能修復・再建学系歯周歯内治療学分野
- 2) 東北大学大学院歯学研究科口腔修復学講座歯科保存学分野
- 3) 北海道医療大学口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野
- 4) 北海道医療大学総合教育学系臨床教育管理運営分野
- 5) 北海道医療大学教養教育学系人間基礎科学分野前教授
- 6) 北海道医療大学口腔機能修復・再建学系う蝕制御治療学分野

A questionnaire survey on the clinical practice of undergraduate dental students in welfare facilities for the aged

Kaname SHIRAI¹⁾, Keisuke HANDA²⁾, Mai KONO³⁾, Toshiyuki NAGASAWA⁴⁾, Masataka EGUCHI⁵⁾, Hisashi KOSHINO³⁾, Takashi SAITO⁶⁾, Yasushi FURUICHI¹⁾

- 1) Division of Periodontology and Endodontology, Department of Oral Rehabilitation, School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido
- 2) Division of Operative Dentistry, Department of Restorative Dentistry, School of Dentistry, Tohoku University
- 3) Division of Occlusion and Removable Prosthodontics, Department of Oral Rehabilitation, School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido
- 4) Division of Advanced Clinical Education, Department of Integrated Dental Education, School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido
- 5) Former Professor, School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido
- 6) Division of Clinical Cariology and Endodontology, Department of Oral Rehabilitation, School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido

Key words : 歯学部臨床実習, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム, 老人福祉施設実習

Abstract

Japan is becoming an aged society, and the rapid increase in the population of the elderly requiring dental treatment is an important issue in dentistry. However, dental students have few opportunities to learn about dental treatment of elderly patients, as many of these cannot visit University hospitals regularly, and live in community healthcare facilities for the elderly. The purpose of this study was to evaluate the clinical practice of fifth year grade dental students in community healthcare facilities for the elderly using a questionnaire.

Collaborating with welfare facilities for the aged, a clinical practice course for dental students was started at the Health Sciences University of Hokkaido in 2013. A questionnaire survey was conducted at the end of the course in 2013 and 2014. In the clinical practice course, 67 students (male 49 female 18) participated in 2013 and 47 students (male 38, female 9) in 2014. Dif-

ferences in the number of participants who answered the questionnaire was evaluated using the Mann-Whitney *U* test.

More than 90% of the students evaluated the course as “valuable”, and more than 80% thought the “team approach” and “communication competency” learning as important. These ratios were not significantly different in the two years. Before the clinical practice course, about 80% of the students voluntarily studied about community healthcare for the elderly prior to the clinical practice, and those students evaluated the course as valuable at a significantly higher rate than the students who did not, indicating that the more knowledgeable (well prepared) students appreciated the course better.

These results suggest that the program is effective for dental students to understand team approaches to medicine in community healthcare facilities for the elderly.

緒 言

世界保健機構（WHO）の定義では、65歳以上（高齢者）の人口が総人口に占める割合（高齢化率）が7%を超えると高齢化社会、14%を超えると高齢社会、21%を超えた状態が超高齢社会とされている。総務省統計局が発表した2013年の人口推計では、日本の65歳以上の高齢者人口は3186万人で高齢化率は25.0%となり、日本は世界一の超高齢社会となった（総務省、2013）。

高齢者の増加に伴い高齢者医療への需要はますます高まってきている。しかし、高齢者医療の適切な実践はさまざまな問題から医療従事者にとって難しいものとなっている。一般的な高齢者の身体的特徴として、疾患に罹りやすくなる（予備力の低下）、内部環境の恒常性維持機能が低下している、複数の疾患を有する、原疾患と関係のない合併症を起こしやすい、などがある。厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）高齢者に対する適切な医療提供に関する研究（H22-長寿-指定-009）研究班、2013。要介護高齢者は、食事、入浴の介助が必要などの特徴があり、歯科治療も困難であることから成人の診療と区別した理解の基で行うことが必要である。

歯学教育モデル・コア・カリキュラム-教育内容ガイドライン-（平成22年度改訂版）（文部科学省、2010）における地域医療教育の一般目標、および到達目標では、地域医療を体験し、理解することを目標として設定して

いる（表1）。これを踏まえ本学歯学部では、2013年度から歯学部第5学年の臨床実習に老人福祉施設実習を取り入れて、老人福祉施設での介護・リハビリ等の見学、補助、および体験に関する研修を行ってきた。しかし本研修を通じて、臨床実習生が要介護者の安全な診療のために必要な知識・態度・技能をどの程度習得し、さらに歯科医師と介護スタッフとの連携の重要性をどの程度理解できたのかは十分に明らかにされていなかった。増加する高齢者への歯科治療の需要に応えるためには、将来の地域医療を担うことを鑑み、臨床実習生へ的高齢者医療に関する教育を効果的に行うことが必要である。本研究では老人福祉施設実習に対する臨床実習生の意識や実習への充実度を検討することを目的として質問紙法による調査を実施した。

対象および方法

-老人福祉施設実習-

札幌市内及び札幌市近郊にある5つの老人福祉施設を実習施設とした（表2）。臨床実習生は、それぞれ1施設で4日間実習を行った。一度の実習で4～6名の臨床実習生が参加した。実習内容は、老人福祉施設内にて、入居者の介護（食事や入浴）の見学と補助を施設職員と共にを行った。また、すべての臨床実習生は、入居者の負担に配慮した時間に口腔清掃指導や義歯の取り扱いに係わる指導を行った。

表1：地域医療教育の一般目標と到達目標

F-5 地域医療	
一般目標：	歯科医療を適切に行うために、地域医療、病診連携についての知識、技能および態度を修得する。
到達目標：	①病診連携、病病連携を理解し、体験する。 ②多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。 ③地域医療を体験する。

歯学教育モデル・コア・カリキュラム -教育内容ガイドライン（文部科学省）- を改変

表2：老人福祉施設の概要

	施設概要	就業職種	入居者数（人）	実習内容
施設A	介護老人福祉施設 短期入所生活介護	看護師、介護支援専門員 介護福祉士、訪問介護員	39	食事介助、入浴介助、服薬確認介助 レクリエーション（ブラッシング指導）
施設B	介護付き有料老人ホーム	看護師、介護福祉士、訪問介護員	64	食事介助、入浴介助、服薬確認介助 レクリエーション（ブラッシング指導）
施設C	介護老人保健施設	介護福祉士、訪問介護員	85	食事介助、入浴介助、服薬確認介助 レクリエーション（ブラッシング指導）
施設D	介護老人福祉施設 短期入所生活介護	介護福祉士、栄養士	100	食事介助、入浴介助、服薬確認介助 レクリエーション（ブラッシング指導）
施設E	介護老人福祉施設	看護師、介護支援専門員 介護福祉士、訪問介護員	82	食事介助、入浴介助、服薬確認介助 レクリエーション（ブラッシング指導）

表3：使用した質問紙票

問1 あなたは事前に老人福祉施設に関して情報収集を行いましたか。
 a.積極的にいった b.行った c.あまり行わなかった d.自分では行わなかったが友人に聞いた e.まったく行わなかった

問2 あなたは今回の老人福祉施設実習に満足していますか。
 a.大変満足している b.やや満足している c.わからない d.あまり満足していない e.全く満足していない

問3 老人福祉施設実習を通して、次の項目についてどれくらい感じましたか。

	とても感じた	やや感じた	どちらでもない	あまり感じなかった	まったく感じなかった
a.働くことの大変さ					
b.仕事の上での責任感					
c.人との接し方、マナーの重要性					
d.個人情報保護の重要性					
e.大学での勉学の重要性					

問4 あなたは医療従事者にとって重要な資質は何だと思えますか。

	とても重要	やや重要	どちらでもない	あまり重要ではない	まったく重要ではない
a.医学的な知識					
b.仕事上の技術					
c.仕事の上での責任感					
d.同僚との連携(チーム医療)					
e.コミュニケーション能力					
f.誠実な態度や仕事					
g.気力					
h.体力					
i.患者との接し方					
j.患者への配慮					

問5 あなたは介護に対するイメージは変わりましたか。
 a.非常に良くなった b.やや良くなった c.変わらない d.やや悪くなった e.非常に悪くなった

－質問紙票の作成－

本研究の目的に照らして質問紙票を作成した。設問は、施設実習前の情報収集の有無、施設実習の満足度、施設実習で感じたこと、施設実習後に重要と感じたこと、介護に対するイメージなど、全5項目とした(表3)。特に多職種連携における基本的能力(Core competencies)は価値観・倫理観、役割・責任、多職種間のコミュニケーション、チームワークなどいくつかの基本的な項目に分けて設定されているため(Core Competencies for Interprofessional Collaborative Practice, 2011)、これらの項目と関連の深いと思われる内容を質問項目とした。本実習に対する意識の高さについて検討するために、それぞれの設問を問3、問4に配置した。

－アンケート調査－

老人福祉施設実習を終えた臨床実習生に本研究の主旨を説明し、記入内容は成績評価に反映されないことを伝え、無記名でアンケート調査を行った。本学歯学部5年生、2013年度は67人(男49人、女18人)、2014年度は47人(男38人、女9人)の合計114人をアンケート調査の対象とした。

－統計解析－

自発的な事前学習を行った学生と、そうでない学生の

違いを調べるために、問1の設問に対して“積極的にいった”、“行った”と答えた2013年度と2014年度の臨床実習生を情報収集群、“あまり行わなかった”、“自分では行わなかったが友人に聞いた”、“まったく行わなかった”と答えた2013年度と2014年度の臨床実習生を非情報収集群とした。群間の比較は、Mann-WhitneyのU検定を用いて行った。統計学的有意差は $p = 0.05$ 未満とした。

結 果

2013年度および2014年度それぞれ67名(男性49名、女性18名)および47名(男性38名、女性9名)すべての臨床実習生からアンケート調査結果が得られた。老人福祉施設実習前の老人福祉施設についての情報収集の有無に関する回答結果を表4に示す。「あなたは事前に老人福祉施設に関して情報収集を行いましたか。」という質問に対して、“積極的にいった”との回答が14.9%、“行った”という回答が64.0%であった。一方、“まったく行わなかった”と回答した臨床実習生は全体の1.8%であった。

老人福祉施設実習の満足度についての結果を表5に示す。「あなたは今回の老人福祉施設実習に満足していますか。」という質問に対して、“大変満足している”との回答が47.4%、“やや満足している”との回答が45.6%で

表4：事前に老人福祉施設の情報収集を行ったか。

	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)
1. 積極的に行った	13 (19.4%)	4 (8.5%)	17 (14.9%)
2. 行った	43 (64.2%)	30 (63.8%)	73 (64.0%)
3. あまり行わなかった	7 (10.4%)	10 (21.3%)	17 (14.9%)
4. 自分では行わなかったが友人に聞いた	3 (4.5%)	2 (4.3%)	5 (4.4%)
5. まったく行わなかった	1 (1.5%)	1 (2.1%)	2 (1.8%)

表5：今回の老人福祉施設実習に満足しているか。

	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)
1. 大変満足している	30 (44.8%)	24 (51.1%)	54 (47.4%)
2. やや満足している	32 (47.8%)	20 (42.6%)	52 (45.6%)
3. わからない	2 (3.0%)	1 (2.1%)	3 (2.6%)
4. あまり満足していない	2 (3.0%)	2 (4.3%)	4 (3.5%)
5. 全く満足していない	1 (1.5%)	0	1 (0.9%)

表6：老人福祉施設実習後の学生の意識

	とても感じた			やや感じた			どちらでもない			あまり感じなかった			まったく感じなかった		
	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)
働くことの大変さ	55(82.1%)	33(70.2%)	88(77.2%)	10(14.9%)	10(21.3%)	20(17.5%)	2(3.0%)	3(4.5%)	5(4.4%)	0	1(2.1%)	1(0.9%)	0	0	0
仕事の上での責任感	54(80.6%)	34(72.3%)	88(77.2%)	11(16.4%)	11(23.4%)	22(19.3%)	1(1.5%)	1(1.5%)	2(1.8%)	1(1.5%)	1(2.1%)	2(1.8%)	0	0	0
人との接し方、マナーの重要性	59(88.1%)	41(87.2%)	100(87.7%)	7(10.4%)	6(12.8%)	13(11.4%)	1(1.5%)	0	1(0.9%)	0	0	0	0	0	0
個人情報保護の重要性	39(58.2%)	28(59.6%)	67(58.8%)	11(16.4%)	7(14.9%)	18(15.8%)	17(25.4%)	12(17.9%)	29(25.4%)	0	0	0	0	0	0
大学での勉学の重要性	39(58.2%)	27(57.4%)	66(57.9%)	20(29.9%)	13(27.7%)	33(28.9%)	8(11.9%)	5(7.5%)	13(11.4%)	0	2(4.3%)	2(1.8%)	0	0	0

表7：医療従事者にとって重要なことに関する学生の意識

	とても重要			やや重要			合計 (n=114)
	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)	
医学的な知識	41(61.2%)	38(80.9%)	79(69.3%)	18(26.9%)	8(17.0%)	26(22.8%)	105(92.1%)
仕事上の技術	40(59.7%)	39(83.0%)	79(69.3%)	25(37.3%)	6(12.8%)	31(27.2%)	110(96.5%)
仕事の上での責任感	46(68.7%)	36(76.6%)	82(71.9%)	16(23.9%)	8(17.0%)	24(21.1%)	106(93.0%)
同僚との連携(チーム医療)	55(82.1%)	38(80.9%)	93(81.6%)	9(13.4%)	7(14.9%)	16(14.0%)	109(95.6%)
コミュニケーション能力	55(82.1%)	40(85.1%)	95(83.3%)	8(11.9%)	6(12.8%)	14(12.3%)	109(95.6%)
誠実な態度や仕事	50(74.6%)	40(85.1%)	90(78.9%)	16(23.9%)	7(14.9%)	23(20.2%)	113(99.1%)
気力	48(71.6%)	37(78.7%)	85(74.6%)	15(22.4%)	8(17.0%)	23(20.2%)	108(94.7%)
体力	50(74.6%)	35(74.5%)	85(74.6%)	13(19.4%)	9(19.1%)	22(19.3%)	107(93.9%)
患者との接し方	43(64.2%)	42(89.4%)	85(74.6%)	22(32.8%)	3(6.4%)	25(21.9%)	110(96.5%)
患者への配慮	49(73.1%)	41(87.2%)	90(78.9%)	17(25.4%)	5(10.6%)	22(19.3%)	112(98.2%)

あり全体の93.0%は満足していると回答した。一方、「全く満足していない」との回答は0.9%であった。

老人福祉施設実習で感じたことについて、5段階評価で回答を求めた。「とても感じた」との回答は「人との接し方、マナーの重要性」で高く(87.7%)、ついで「働くことの大変さ」、「仕事の上での責任感」(77.2%)であり、「個人情報保護の重要性」、「大学での勉学の重要性」は比較的lowかった(58.8%および57.9%)(表6)。

老人福祉施設実習を終えて医療従事者として重要、と

感じた項目の結果を表7に示す。10項目について、どれほど重要と感じたかを5段階評価で回答を求めた。全体を対象とした場合、「同僚との連携(チーム医療)」や「コミュニケーション能力」は「とても重要」と感じた回答がそれぞれ81.6%、83.3%と高い傾向にあった(表7)。また、すべての項目において、「とても重要」と「やや重要」と回答した臨床実習生は92.1%~99.1%であった。

老人福祉施設実習を終えて、介護に対するイメージの

表8：介護に対するイメージの変化

	2013年度 (n=67)	2014年度 (n=47)	合計 (n=114)
1. 非常によくなった.	25 (37.3%)	16 (34.0%)	41 (36.0%)
2. やや良くなった.	21 (31.3%)	18 (38.3%)	39 (34.2%)
3. 変わらない	18 (26.9%)	10 (21.3%)	28 (24.6%)
4. やや悪くなった.	3 (4.5%)	3 (6.4%)	6 (5.3%)
5. 非常に悪くなった.	0	0	0

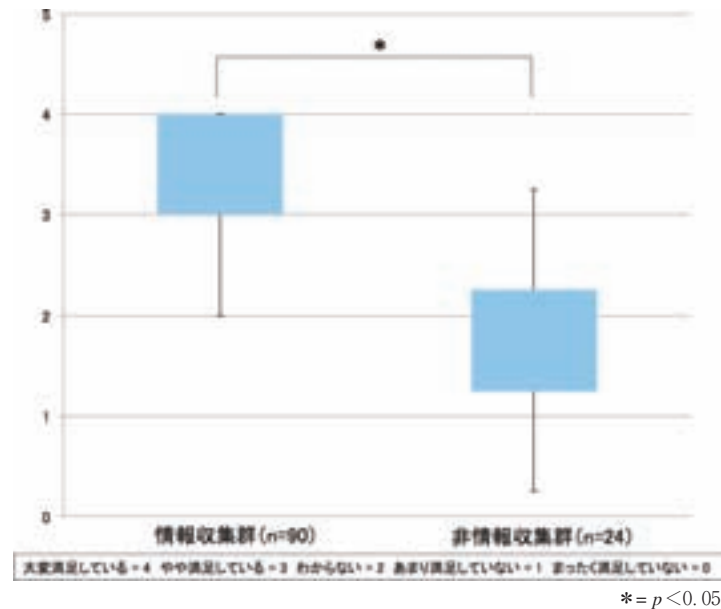


図1：情報収集群と非情報収集群の実習満足度についての比較

表9：情報収集群と非情報収集群における実習の意識の高さ

老人福祉施設実習を通して、 次の項目についてどれくらい感じましたか。	情報収集群 (n=90) 平均値 (中央値, 95%CI)	非情報収集群 (n=24) 平均値 (中央値, 95%CI)	P
働くことの大変さ	3.89 (4, 3.82-3.95)	3.04 (3, 2.70-3.34)	<0.05
仕事の上での責任感	3.86 (4, 3.76-3.95)	3.21 (3, 2.90-3.52)	<0.05
人との接し方, マナーの重要性	3.93 (4, 3.87-3.99)	3.63 (3, 3.42-3.82)	<0.05
個人情報保護の重要性	3.46 (4, 3.29-3.63)	2.88 (3, 3.53-3.21)	<0.05
学校での勉学の重要性	3.60 (4, 3.46-3.74)	2.79 (3, 2.48-3.10)	<0.05

とても感じた=4 やや感じた=3 どちらでもない=2 あまり感じなかった=1 まったく感じなかった=0

変化の結果を表8に示す。“非常に良くなった”との回答は36.0%，“やや良くなった”との回答は34.2%であった。臨床実習生の70.2%は介護に対してイメージが良くなったと答えた。

質問紙票の問1～問4の回答を比較検討した結果を図1, 表9, 表10に示す。問2の質問の回答について情報収集群と非情報収集群で比較したところ, “大変満足している”と答えた臨床実習生数は情報収集群で有意に高かった。問3の質問の回答について情報収集群と非情報収集群で比較したところ, “とても感じた”と答えた臨床実習生は情報収集群で有意に多かった。また重要と考える項目について情報収集群と非情報収集群で比較したところ, すべての項目で “とても重要” と答えた臨床実

習生数は情報収集群で有意に高かった。

考 察

現在, 全国の歯科大学・歯学部では, 文部科学省の制定した歯学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき, 臨床実習を行っている。また, 文部科学省は, 診療参加型臨床実習の目的を「臨床実習生が診療チームに参加し, その一員として診療業務を分担しながら, 医師としての職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な内容を学ぶこと。」とし, 「診療参加型臨床実習を充実させるため, 専門的な知識にとどまらず, 患者や家族と良好で信頼されるコミュニケーションができる能力や態度を育成し, 医療チームの構成員との協調や, 患者や家族の要

表10：情報収集群と非情報収集群の実習で重要と感じたことの比較

あなたは医療従事者にとって 重要な資質は何だと思いますか。	情報収集群 (n=90)	非情報収集群 (n=24)	P
	平均値 (中央値, 95%CI)		
医学的な知識	3.72 (4, 3.61-3.83)	3.00 (3, 2.54-3.56)	<0.05
仕事上の技術	3.75 (4, 3.65-3.86)	3.12 (3, 2.82-3.51)	<0.05
仕事の上での責任感	3.81 (4, 3.72-3.90)	3.00 (3, 2.66-3.33)	<0.05
同僚との連携 (チーム医療)	3.88 (4, 3.81-3.96)	3.33 (3, 3.03-3.64)	<0.05
コミュニケーション能力	3.94 (4, 3.90-3.99)	3.21 (3, 2.90-3.52)	<0.05
誠実な態度や仕事	3.86 (4, 3.78-3.93)	3.50 (3, 3.26-3.74)	<0.05
気力	3.79 (4, 3.69-3.89)	3.33 (3, 3.05-3.61)	<0.05
体力	3.77 (4, 3.66-3.89)	3.38 (3, 3.07-3.68)	<0.05
患者との接し方	3.84 (4, 3.77-3.91)	3.21 (3, 2.91-3.50)	<0.05
患者への配慮	3.89 (4, 3.81-3.96)	3.33 (3, 3.10-3.56)	<0.05

とても重要=4 やや重要=3 どちらでもない=2 あまり重要でない=1 まったく重要でない=0

望を理解しそれにできるだけ応えていくために必要な実践的な診療技能を習得させるためには、実際の医療の現場における診療参加型臨床実習の充実を図ることが必要である。」としている。

本学歯学部臨床実習における老人福祉施設実習は、歯科診療を適切に行うために、地域医療、病院連携についての知識、技能及び態度を修得することを目的とし、臨床実習の一環として老人福祉施設にて介護・リハビリ等の見学、補助、体験を行っている。本研究では質問紙法による調査を実施し、老人福祉施設実習に対する臨床実習生の意識の高さを検討した。特に多職種連携における基本的能力 (Core competencies) は価値観・倫理観、役割・責任、多職種間のコミュニケーション、チームワークなどいくつかの基本的な項目に分けて設定されているため (Core Competencies for Interprofessional Collaborative Practice, 2011)、これらの項目と関連の深いと思われる内容を質問紙票に配置した。表6に示す項目に対して“とても感じた”と回答した場合は本実習に対する意識が高いと判断し、表7に示す項目に対して“とても重要”と回答した場合は本実習への意識が高かったと評価した。歯科教育に係る調査の解釈やレポートに影響する因子としては、サンプル数が最も大きな影響を与えると考察されている (Chambers & Licari, 2009)。また、本研究では調査年度の学生は同じ内容の教育を受けており、2年分のサンプルを合わせて解析することが可能であると考えられる。2年分のサンプル数は合計114名であり、一定の信頼性が得られていると考えられる (Chambers & Licari, 2009)。

本学では2014年度から第1学年時に全学部共通必修科目である「個体差健康科学・多職種連携入門」が行なわれている。講義内容として、歯学、薬学、看護福祉学、

心理学及びリハビリテーション学の観点から、高齢者における医療について他学部を交えた学生同士で討論を行っている。高齢者がますます増加することが予想される中、老人福祉施設について討議することが本学の低学年時から積極的に行われている。しかし、今回の調査対象となった臨床実習生は第1学年時にはこの講義を受講していない。4年後の臨床実習生は、第1学年時に多職種連携講義を受講している学年であり、老人福祉施設の入居者の問題点について他学部を交えた小グループで討論し、問題点の抽出とその対策について発表する実習を行っている。これらを踏まえて、実際に実習を行う老人福祉施設の受け持ち入居者のもつ問題点と対応について学生が話し合い、施設職員にプレゼンテーションするなどの学習が必要であると思われる。

今回の老人福祉施設実習後に、この実習に満足しているかを質問した。“満足している”と回答した臨床実習生は2013年度と2014年度ともに全体の90%を超えた。実習内容は、老人福祉施設での介護・リハビリ等の見学と、補助が中心であった。そのなかで、4日間という短期間で、低学年時に得た知識と実際の福祉現場での差異を多く経験したことや、大学病院で行う臨床実習とは異なる環境での実習内容であったこと等が“満足している”との回答が多かった理由であると考えられる。

事前に老人福祉施設について調査した臨床実習生を情報収集群、そうでなかった臨床実習生を非情報収集群とした。老人福祉施設実習における満足度の関係を調べた結果、情報収集群は、非情報収集群と比較して“大変満足している”と回答した臨床実習生が有意に多かった。この結果から、老人福祉施設について事前に調査した臨床実習生ほど満足度が高いと考えられ、本実習が座学による予習では得られない地域医療の実際を学ぶ機会とし

て有用であることが示唆された。また情報収集群と非情報収集群で老人福祉施設実習に対する意識を比較したところ、情報収集群は非情報収集群と比べて本実習の意識が有意に高いことがわかった。この結果から、老人福祉施設について事前に調査した臨床実習生は、本実習を行うにあたり重要と考える項目の予備知識を得た上で実習に取り組むことができ、本実習の意義を高めることが示唆された。さらに、情報収集群は非情報収集群と比べてコミュニケーション能力、同僚との連携などについて有意に高く評価しており、本実習に対する意識が高い事が示唆された。

今回の老人福祉施設実習で、臨床実習生は高齢者特有の生活環境を体感することができた。高齢社会の進展とともに、摂食・嚥下障害のある者が増加し、誤嚥性肺炎は65歳以上の高齢者で生じる肺炎の約1/3を占めることが報告されている(渡辺一功, 1994)。そのため、福祉施設職員は食事を容易に咀嚼可能で消化が良いものにする支援を行っていた。また、口腔内を清潔に保つために口腔清掃や義歯清掃の補助なども施設職員が行っていた。超高齢社会において高齢者介護施設の社会的要求が増加する一方、施設職員は過酷な労働により精神的健康を保てていないことも問題となっている(森本寛訓, 2003)。臨床実習生は、老人福祉施設実習を通して、高齢者に特徴的な身体的及び精神的状態に適した施設職員の対応に触れることで、高齢者介護現場から歯科医師として多職種連携していく上での「働くことの大変さ」や「仕事の上での責任感」を感じることができたと考えられる。

一方、実習を通して「個人情報保護の重要性」と「大学での勉学の重要性」に関する質問では、他の項目と比較して“とても感じた”との回答が50%台と少なかった。臨床実習生は、老人福祉施設実習において入居者の居住空間も実習対象となっていることで、入居者の個人情報を垣間見る機会も多かった。入居者への介護を行うことは、個人情報と常に隣り合わせの活動であることも多い。そのため、特に個人情報の保護が強く求められる。実習先の老人福祉施設など多くの施設が、施設規定で個人情報保護について明文化している。個人情報保護は一般的には重要な事柄だが、老人福祉施設実習やコア・カリキュラムの地域医療という観点からは最重要事項ではないため、「個人情報の重要性」を重視した臨床実習生が少なかった可能性が考えられる。

歯学教育モデル・コア・カリキュラムでは、保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療および社会環境を理解することを一般目標に掲げている(文部科

学省, 2010年)。現時点の到達目標は、“多職種連携のチーム医療を理解し、体験すること”となっているため、質問紙票による意識の調査を行った。しかし、超高齢社会を迎えて地域医療の重要性が増しており、今後は地域医療についての知識、技能および態度について、現在よりも高いレベルまで修得することが求められる可能性が考えられる。今後は、低学年時に得た知識の確認のための本実習前テスト、実習後テストの実施や、ポートフォリオによる態度、技能の評価など、低学年からの学習を生かして、より高いレベルまで修得可能な教育システムを確立することが望ましいと思われる。

老人福祉施設は、介護支援専門員、医師、歯科医師、看護師など複数の医療専門職が連携して、高齢者の疾患予防やケアにあたっている。このようなチーム医療は、「医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」と定義付けられている(厚生労働省, 2010年)。アンケートの間4で、「同僚との連携(チーム医療)」と「コミュニケーション能力」は、とても重要であるとの回答が80%を超えた(表7)。チーム医療は、老人福祉分野だけでなく歯科治療領域でも今後重要となってくる。高齢者が増加するにつれ、全身疾患を有する患者の割合が高くなり、歯科治療で全身的な管理を必要とすることが増加している。そのため、歯科医師は高齢者に関する知識の蓄積が今後さらに必要となってくる。加えて、歯科医師は歯科衛生士と協力して高齢者の身体的特徴に配慮したチーム医療を実践する必要がある。そのためにも、歯学部の実習期間中にこのような老人福祉施設における体験型実習を経験することは重要である。

結 論

老人福祉施設実習は、歯学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき、地域医療を体験し、理解することを目標として行なわれている。アンケートの結果から多職種連携のチーム医療の体験ならびに高齢者への対応の仕方、認知症などの病気の理解やサポートの在り方を学んだこと学ぶことを通じて、その重要性についての意識が高まったことが示唆された。老人福祉施設実習は、地域医療を学ぶ上で重要なチーム医療と高齢者治療の歯学教育モデル・コア・カリキュラムの地域医療を体験できる実習であることが明らかとなった。また、老人福祉施設について自発的に情報収集を行うことが、実習の充実度を高めることが示唆された。

文 献

Chambers DW, Licari FW, Issues in the interpretation and reporting of surveys in dental education. J Dent Educ 73 (3) : 287-302, 2009.

Core Competencies for Interprofessional Collaborative Practice. <http://www.aacn.nche.edu/education-resources/ipereport.pdf> : 2011.(accessed on 31 March 2015)

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
高齢者に対する適切な医療提供に関する研究（H22-長寿-指定-009）研究班. 高齢者に対する適切な医療提供の指針：2013.

厚生労働省. チーム医療の推進に関する検討会（2010年3月19日実施）, 2010.

文部科学省. 歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成22年度改訂版）. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2013/11/15/1324090_24.pdf : 2010. (accessed on 31 March 2015)

森本寛訓. 高齢者施設介護職員の精神的健康に関する一考察-職務遂行形態を仕事の裁量度の視点から捉えて-. 川崎医療福祉学会誌（13）2 : 263-269, 2003.

総務省. 人口推計 <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.htm>. 総務省統計局（accessed on 31 March 2015）

渡辺一功. 嚥下性肺炎. 領域別症候群3呼吸器症候群上巻, 別冊日本臨牀 : 223-225, 1994.



白井 要

平成17年3月 北海道医療大学歯学部卒業

平成20年9月 北海道医療大学大学院歯学研究科博士課程修了

平成23年11月 北海道医療大学歯学部口腔機能修復再建学系歯周歯内治療学分野 助教

平成27年4月 北海道医療大学歯学部総合教育学系臨床教育管理運営分野 講師（口腔機能修復再建学系歯周歯内治療学分野兼任）現在に至る